

明夏

ともしび

やせて弱って でも変わらず美しく いやこんなに美しい彼女をはじめて見た
死にゆく彼女はまるで花がひらくように私に笑いかけ
いのちの炎がゆらめいてゆらめいて だだずっとその炎を見つめ続けることができたなら
いつか私もその炎になれたなら

なぞなぞ

火事になったら うらまれて
凍えた日には 感謝され
あなたがいなくても 生きていけない
おいしいお料理も できないでしょう
形のない熱いもの いつもそばにいるもの